

# 生徒会長 挨拶

新海 充生

第77代生徒会長として活動した一年間は、とても短く同時に貴重な時間でした。生徒会役員選挙で当選した直後はまだ生徒会長という実感があまりなく、これから始まる約一年間の任期でどのように生徒会行事を運営していくのかを模索していました。振り返ってみるとたくさんの先生方や生徒の皆さんに支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

私が学校行事を運営する時には、普段部活動や勉強で追い込まれ疲れている生徒の皆さんに生徒会行事は楽しんでほしいという思いを軸に持ち生徒会長として活動していました。その中で最も模索しながら進めたのは、学園祭です。今年度の学園祭は去年とは異なり10月開催でした。夏休み前から学園祭に向けて活動し、実施要項の作成や細かいルール作りなどに取り組みました。五葉祭実行委員会を通してルールや提出期限の周知に努めましたが、部活動や感染症の影響もあり、運営には多くの工夫と困難がありました。しかし、迎えた五葉祭当日はそれぞれの個性が出たクラス発表や二日目の一般公開にはたくさんの来場者の方々に賑わっていたのがとても印象的でした。普段の部活動や勉学の疲れを感じさせない活気あふれた工業生の姿はテーマ通り「ガチ」になれていた証拠だと思います。準備の段階から全力で動いてくれた第77代生徒会役員のみなさんや先生方など様々な方に支えていただき最高の五葉祭にすることが出来ました。来年度以降は第78代生徒会役員の皆さんをはじめさらに甲府工業が発展していくことを期待しています。

結びに、生徒会誌「五葉」の執筆にご協力いただいた多くの方々に心から感謝します。また、先生方をはじめ、同窓会の皆様、保護者の皆様を始めとする甲府工業高校に関わっていただいている全ての関係者の皆様に日頃の生徒会活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。今後も甲府工業生徒会が益々発展していくことを祈念して、第77代生徒会長挨拶とさせていただきます。

## 生徒会副会長 挨拶

柏原 季緒

皆さんこんにちは。第77代生徒会副会長を務めさせていただいた柏原季緒です。

日頃より、生徒会活動に対し、多くのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。生徒会としての活動は、行事の運営や学校生活に関わるさまざまな場面で、多くの生徒や先生方に支えられながら成り立っていたと、改めて感じています。

正直に振り返ると、私の高校三年間は、常に楽しかったと言えるものではありませんでした。つらいと感じることもあり、学校生活が思うようにいかず悩んだことも多く、気持ちが追いつかないまま日々を過ごしていたこともあります。それでも、考え、悩み続けた時間は、決して無駄ではなかったと今は思います。

特に副会長を務めることになった経験は、私にとって大きな意味を持つものでした。責任の重さに戸惑いながらも、「自分たちの手で学校行事をつくる」という経験をすることができました。準備は決して簡単ではなく、大変なことの方が多かったように思いますが、その分、一つひとつの行事に強い思いを込めて取り組むことができました。副会長として活動する中で、うまくいかないことや悩むこともありましたが、それらを含めて、この経験があったからこそ、私は一歩成長でき、少し強くなれたと感じています。

後になりますが、これまで生徒会活動を支えてくださった先生方、共に活動してきた生徒会役員の間、そして協力してくれたすべての生徒の皆さんに、心より感謝申し上げます。つらさも悩みも含めたこの三年間は、私にとって忘れられない時間であり、これから先の人生を支えてくれる大切な経験です。これから先も甲府工業がさらに発展して行くことを祈念し、第77代生徒会副会長の挨拶とさせていただきます。

# 未来に向かって

校長 萱沼 恵光

2025年、日本では大阪・関西万博が開幕し、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマのもと、世界中から多くの人々が集まりました。人間一人ひとりが望む生き方を考え、可能性を最大限に発揮し、持続可能な社会を創っていくことを目指し、最新技術や持続可能な社会への挑戦が披露されました。未来を切り拓く力を感じた人も多かったことでしょう。生徒のみなさんもまた、自分たちの未来を信じ、いくつもの努力を重ね、高校生活を送ってきたことだと思います。

ところで、みなさんは、2025デフリンピックが11月に日本で開催されたことをご存じでしょうか。デフリンピックとは「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。実はこの大会に、本校OBの佐藤正樹選手が出場していました。佐藤選手は、昨年の柔道男子66キロ級デフ世界選手権の覇者で、この大会で金メダルを獲得することを目標に努力を積み重ねてきました。残念ながら個人の結果は4位で惜しくもメダルには届きませんでした。男子団体では見事銅メダルを獲得しました。高校時代に、担任の先生からもらった「きこえないことも個性だ」という言葉を自身の糧にして努力を重ねてきたとのことでした。耳が聞こえないことを弱みと捉えるのではなく、自分らしさとして受け止め努力を重ねる姿は、私たちに「挑戦する心」の大切さを教えてくれているように感じました。

今みなさんは新しい一歩を踏み出そうとしています。未来は決して平坦ではありません。しかし、本校で培った努力と仲間との絆は、どんな困難にも立ち向かう力になります。大阪・関西万博が示したように、未来は挑戦する者の手によって形づくられます。甲府工業高校で学んだ「挑戦する心」を胸に、それぞれの道で輝いてくれることを期待しています。

# 今年度を振り返って

生徒会主任 齊藤 隆

本年度は始業式・入学式を皮切りに、部活動紹介や応援・歌唱練習を行い、1学年全員が甲府工業生として新たな一步を踏み出しました。5月には山梨県高等学校総合体育大会が開催され、生徒会本部や応援団、文化部が応援に参加し、全校生徒が一丸となって男子総合準優勝を獲得しました。文化部では放送委員会が全国大会に出場するなど、多くの部が素晴らしい成果を挙げました。野球部は夏の山梨大会でベスト4、秋季大会では準優勝し、関東大会で1勝をあげました。来年度は総体総合優勝、甲子園出場を目標にしています。学園祭も一般公開を実施し、多くの来場者に支えられ盛況のうちに終了しました。生徒会活動は保護者や教職員、同窓会をはじめとする皆様のご理解とご協力のおかげです。今後も本校のさらなる発展に向け、生徒とともに努力を重ねてまいります。

